

美瑛富士・携帯トイレブース等点検パトロール実施報告書

(2026年版)

実施年月日	令和8年6月20日 令和8年6月21日	団体名／所属先	山のトイレを考える会
参加人数	計14人	報告者	磯部吉克 (山のトイレを考える会)

NO	点検項目	結果と措置内容
1	携帯トイレブース本体 (破損は無い、固定ロープの緩みなど)	冬囲い外しを行ったが、ブース内部・周辺ともにきれいな状態が維持されている。大きな損傷や汚損も見られなかった。ただ、ドアの開閉がややきつくなっている状況。
2	携帯トイレブース内 (汚れていないか、便座の汚損はないかなど)	特になし
	ブース利用カウンター値	カウンター数値:2
3	小屋周辺のティッシュや汚物の散乱状況 (ティッシュや汚物の回収数の確認、その他のゴミ散乱状況確認、回収)	ティッシュ回収数:1 汚物の回収数:なし
4	小屋内外(損傷した箇所はないかなど)	屋根の腐食や雨漏り、窓ガラスの破損、隙間風など施設の老朽化が確認 小屋内に滞在した際にも外気の影響を強く受け、屋内であっても寒さを感じる状況
5	小屋内(清掃はされているか、放置したゴミはないか、小さなゴミは回収したかなど)	清掃はされている、ゴミはない
6	回収ボックス (白金観光センター隣のトイレ横) *鍵はダイヤルキー 鍵NOは530(ごみゼロ)	施錠はされていたか:されていた ゴミはなかったか:ない 十勝岳温泉の回収ボックス=ラベル剥離と飛散

感想・特記事項

十勝岳噴火警戒レベル2による入山規制(十勝岳、三段山、カミホロカメツク山)の影響もあり、登山者の姿はほとんど見られず、例年と比較して静かな状況。携帯トイレブースの冬囲い外しやテント場、回収ボックスの点検については大きな問題は確認されなかった。ブースでは養生テープの剥離やシートの一部露出が見られた。回収ボックスでは一箇所ラベルの飛散が確認されたため、応急的に貼り直しを行った。今年は残雪が非常に多く、登山道が不明瞭な箇所が散見された。

今回実施した避難小屋の調査では、屋根の腐食や雨漏りによる天井合板の剥離、窓ガラスの破損、隙間風など施設の老朽化が確認。避難小屋は登山者の安全確保に欠かせない重要施設であり、携帯トイレブースの設置環境とも密接な関係にある。風雨をしのげる避難小屋が近接していることで、登山者は安心して携帯トイレを利用することができ、その結果として高山植物の保護や山岳環境の保全にもつながっている。

今後は、避難小屋と携帯トイレブースを一体的な登山環境整備施設として捉え、利用実態や費用対効果を踏まえながら、修繕・改修等の必要性について検討していく時期に来ていると考える。

参加者名(※はリーダー)

※磯部吉克、幸村和実、城石謹爾、田邊考次、金田一仁志、小林将
環境省3名、美瑛町2名、美瑛山岳会3名 計14名

★実施後は、写真を添付のうえ、速やかにメール(hokkaido@yamatoilet.jp)へご報告ください。

★参加者全員の集合写真は必須とし、あわせて活動中の写真も数枚ご提供いただけますと幸いです。

★写真データは可能な範囲で1枚あたり300KB以下に縮小していただくと助かります(厳密なサイズ指定ではありません)。